



佐藤栄佐久氏
(郡山の自宅で)

県知事就任

政治の世界は、一寸先も闇。その言葉通り、参議院議員となつて五年目、降つてわいたように私は県知事選に出馬することになります。

日本の民主主義の根本にかかわると思つたのですが、福島県知事の候補者選びも一部の国会議員数人の意向次第。県民の意向など考慮されない中で決められそうでした。前にもちよつと触れたよう

に、今の安倍晋三総理の父上
が幹事長で、県選出国会議員
のもと、一時は候補者双方と
も降りるといふことになりま
した。
ところが、私は降りたのに
片方は運動をしている。その
ために私は、安倍晋太郎幹事
長に、「県知事は県民が選ぶも
のです」とタンカを切つて、
敢然と再度、立候補しました。
その後私はいわきに直行し、
JCの仲間の一人、根岸勝栄
君の案内で、上遠野地区を一
軒一軒ご挨拶に伺つたので
が、どの家でも皆さん「今、
テレビのニュースで見ていた」
と、まるでお化けを見たよう
な顔をされていました。
私が何故知事選に立候補し
たかといえは、「民主主義の危
機」を感じていたからなので
す。県民不在の候補者選びに
私の反骨精神が首をもたげた
のでした。

環境問題に警鐘

私は県知事に当選しました。
四十九歳の若い知事でしたが、
県内をくまなく回つたおかげ
で地域の課題や問題も全て我
がこととなつていて、知事と
して何をなすべきか、全く迷
いはありませんでした。
たとえば、それまで国↓県
↓市町村↓住民となつていた
方向を、私から見ると一人ひ
とりの顔の見える住民から出
発して、住民↓市町村↓県↓
国へとベクトルを変えてゆく。
また選挙で案内され知つた
田人町の荷路夫に、不法投棄
されていた大量のゴミ問題。
廃坑に捨てられていた東京の
大企業の廃油、これはいわゆ
る「東京問題」の一つとして
知事の間、私が警鐘を鳴らし
続ける契機となりました。
平成十五(二〇〇三)年の
「原子力学会誌」の巻頭言で、
原発問題と同じく文明文化哲
学の問題として東京一極集中
などもつてのほかと主張しま

した。
複数主義という理念の下、
県も一極集中でなく、七つの
生活圏に、そして道州制は、
第一次安倍内閣が、「憲法改正
と道州制」を政治目標に成立
する二カ月前に、島根県・松
江での知事会でつぶしました。
勿論、「合併をしなくてもい
いよ」と。
福島県にはまだ村が十四村
残っています。七百人の村も
ありますと自慢していたら、
現在の内堀雅雄副知事と、フ
ランスを訪問した時に、パリ
近郊には百六十人の市もあり
ました。
政治家にとつて一番重要な
資質は、理念を掲げて住民
市民から出発すること、それ
を貫くことだと私は考えてい
ます。
実は参議院時代、私は谷垣
禎一氏や、大島理森氏などと
一緒に勉強会を立ち上げ、フ
ランスのドゴール大統領が進
めたラングドック・ルシオン
計画(パリの所得を、遅れて
いた地中海地域に持つて行く)
に倣い、全国にリゾート地を
展開する「緑陽日本構想」を
まとめていました。
しかし、実際に福島県を預
かる知事となつてみると、磐
梯山の山麓にリゾートマン

前福島県知事 佐藤栄佐久氏

語る!

特別
寄稿

新国土計画で「美しい」続々 危険な決断だった「原発寄り」

シヨンが乱立して、景観はど
うなつてしまうのか。いわき
市でもゴルフ場計画が次々と
出されて、先行きがどうなる
のか――。

現地・現場からとらえると、
とても進められるものではあ
りません。さらには水の問題、
仕事や住み心地、地域コミュ
ニティー……。一つひとつ重
大な問題です。

これら一つひとつの問題に、
二十一世紀の価値観で向かい
合わなければならないと考え、
県職員にも二十一世紀からみ
てどうなんだと、うるさいぐ

らい話しました。

そこから、日本初のリゾー
ト地の景観形成条例の制定と
なり、ゴルフ場規制となつて
いわきの乱開発もかろうじて
防止することが出来ました。
こうした考え方がのちに五
つの共生、即ち、人と人との
共生、人と自然との共生、地
域間の共生、世代間の共生、
民族宗教・国家の共生にま
まつていったと考えます。

小選挙区制に反対

こうした地域からの発信が
第四次全国総合計画では、四
つしかなかった福島発の「美
しい」という言葉が、「二十
一世紀の国土計
画」では、五十六カ所
にも登場した「力」に
なつたと思います。

そういえば、知事
一期目の最終年度の
平成四(一九九二)年、
アエラの十月十三日
号で、「福島県は部長
以上知事まで、国か
らの幹部ゼロ」と大
きく取り上げられま
した。地方自治に対
する取り組み方が本
物で素晴らしいとい



知事に当選直後のいわき5JJC合
同例会で(昭和六十三年十一月(内
郷))

著者プロフィール 佐藤 栄佐久 (さとろ・えいさく)

1939(昭和14)年6月24日生まれ。福島県郡山出身。県立安積高校、
東京大学法学部卒。青年会議所活動などを経て83年の第13回参議院選
挙に自民党公認で出馬、当選。88年、参議院議員を辞職して同県知事選
に出馬、以後、5期連続当選。

知事在職中は、教育、環境問題に尽力する一方、東京一極集中、道州
制などについて否定、さらに、政府、電力会社が進めるプルサーマル計
画の導入についても反対を唱えるなど、“戦う知事”として県民の人気を
集めた。ところが、県発注のダム工事に伴う「汚職事件」に関与したと
される実弟の逮捕によって、県政を混乱させた責任をとり、2006年9月、
5期目の任期途中で辞職。その後、自身も逮捕される。12年10月、最
高裁は弁護側、検察側双方の上告を棄却、懲役2年・執行猶予4年の最
高裁判決が確定した。

☆ ☆
*高裁の判決は、「有罪」とする前提がすべて崩れているにもかかわらず、「無形のわいろ」や「換金の利益」といった従来の法の概念にはない
不思議な理論と論法で「有罪」とした。この結果、「罪自体が不明」とし、「冤罪」を指摘する声も大きい。

著書に、『知事抹殺―つくられた福島県汚職事件』などがある。現在は、
全国各地で国の体制・体質、原発問題などについて講演活動を展開中。

う面映ゆくなるような記事で
した。
そうそう、知事になつて二
年目、朝日新聞のシンポジウ
ムに呼ばれたこともありまし
た。テーマは、「小選挙区のは
非」でした。

当時は、小選挙区に否を唱
えようものなら「守旧派」と
決めつけられ、ブーイングの
嵐でしたが、私は日本の体質
と民主主義の成熟度から言っ
て、「小選挙区に反対」ときつ
ぱり表明しました。

小選挙区となり、その結果
どうなつたか――。

改めて言うまでもなく、二
大政党が「原発寄り」。福島
の現状をみると、いかに危険な
決断であつたか。

この原稿を書きながら、「地
方自治の実践と福島原発事故」
というテーマで、明日講演を
する県庁所在地に原発を抱え
る、島根県・松江に、半分思
いをいたしております。

|| 続く

*題字は、石川進さん(本
誌「私の博物誌」執筆)

美しい写真とともにおくる、いわきのしられざる歴史と文化。
いわき
ムック版
定価/2,100円(税込) ◆オールカラー/158頁
写真/アクアマリンふくしまの夜景(撮影・赤沼博志)

ちゃんがらの国
私たちは「ちゃんがら」の真実を
目の当たりにする。
定価/1,260円(税込) 夏井芳徳

美しい写真とともにおくる、いわきのしられざる歴史と文化。
いわき
ムック版
定価/2,100円(税込) ◆オールカラー/158頁
写真/アクアマリンふくしまの夜景(撮影・赤沼博志)

歴史春秋社 〒965-0842 福島県会津若松市門田町中野大道東 8-1 TEL.0242 (26) 6567 FAX.0242 (27) 8110